

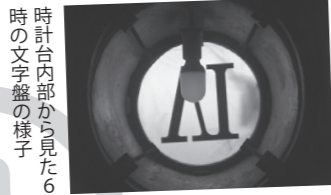
京大にある、関係者以外立入禁止の場所。 これはその調査報告である。

※今回入った場所は、基本的に立ち入ることのできない場所です。
今回の取材は、特別な許可を得て行われています。

時計台最上層

とある扉の先には急な階段があり、そこから最上層に上がることができる。最上層には時計を動かすモーターが設置されており、意外と狭い。きれいな文字盤のイルミネーションは右上の写真のようにシンプルな仕組みであった。

鐘は時計の動きに連動したハンマーが自動的に鳴らす仕組みになっている。総長が突いているといううわさは本当ではないようだ。



時計台内部から見た6時の文字盤の様子

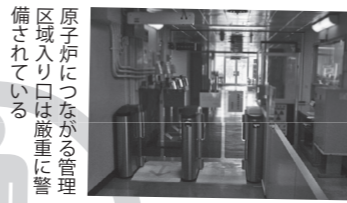


時計台は南北側と東西側で長さが違う。南北側が長い

原子炉実験所

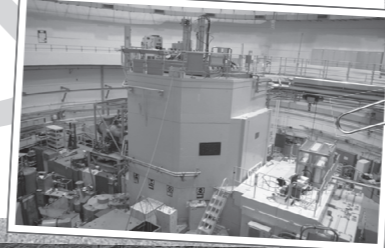
大阪府熊取町にある京都大学原子炉実験所。その中の研究用原子炉を取材した。放射線の検知器を首から下げて原子炉の中に入ると、原子炉を中心に所狭しと実験装置が並べられていた。ここでは核エネルギー、放射線の研究やガン治療の研究などが行われている。

イタイタイ病の原因物質がカドミウムであることを特定したのもこの施設である。



原子炉につながらる管理区域入り口は厳重に警備されている

原子炉内部の様子。中央にあるのが原子炉



理学研究科植物園

「突然の倒木に注意」という看板を見て、やや不安になりながら園内へと入る。幸い危険はなかったものの、園内の道には石や切り株があり、とても歩きにくかった。

この植物園は研究と教育のために整備されており、園内の植物を利用した実験や生物の採集などが行われている。見学希望者は理学部生物科学専攻事務室で手続きをすれば、中に入ることができる。



園内には池があり、水鳥が訪れていた

大学構内とは思えないほど、うっそうと茂る植物



京大の立入禁止

京大探偵団

その先に何があるのか、編集部員が解き明かす!

総合研究5号館地下

立入禁止の扉の向こうには、サーバーコンピュータが置かれていた。室内はかなりの熱気と轟音に包まれている。マシンの排気熱とそれを冷やすためのエアコンの音だ。

この施設は2008年から稼働を開始しており、メインのシステムだけでもメモリ容量は13TB、性能は50.5TFlopsを誇る。気象シミュレーションなど膨大な計算を必要とする研究に使用されている。



室内には機械を収めた箱がずらりと並ぶ



それぞれの箱の中はこのようにになっている

総合博物館収蔵庫

博物館の収蔵庫の中でも最も大きい、第3収蔵庫に入った。中には120万点以上の植物標本が、可動式の棚に収蔵されており、今年年間約1万点のペースで増えている。これは世界的にも有数の規模だそうだ。

収蔵庫は薬品臭いかと思いきや、意外にも無臭だった。現在は薬剤ではなく、冷凍処理で虫を殺しているためだそうだ。



資料は学名で整理され、すぐに目当ての標本を発見できる



押し葉標本だけでなく、右のような標本も

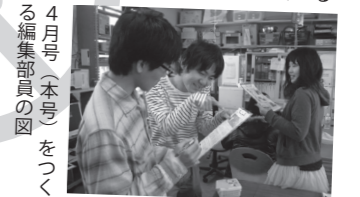
らいふすてーじ編集室

一応我が編集室も関係者以外立入禁止である。編集室は主に記事の執筆に使われており、編集会議は別の場所で行われている。

編集室にはパソコンやコピー機だけでなく、ソファなども完備。本棚にはデザインや撮影関係の本がそろっており、らいふすてーじはもちろん、関西で発行されているさまざまなフリーペーパーのバックナンバーも保管されている。



作業用のパソコン。これでらいふすてーじを書いている



4月号(本号)をつくる編集部員の図